

大学名 茨城大学

第59号テーマ
「ニューノーマル時代の大学」

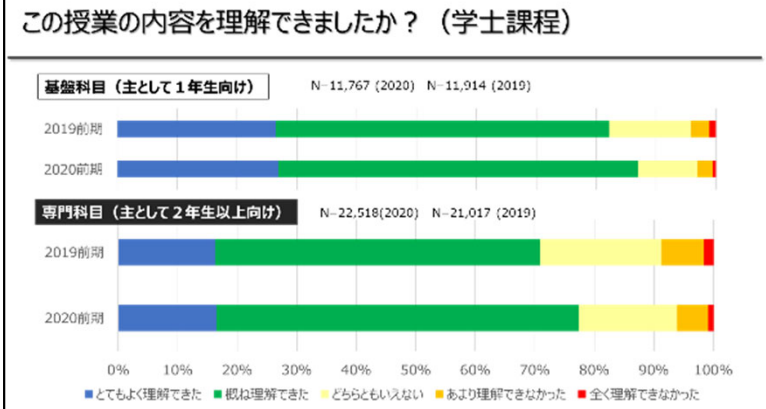
表題 実績とステークホルダーの協力を礎に、大学教育のDXを促進

本学ではBYOD体制などの強みを活かした遠隔授業の学修効果を検証し、さらに教育のDX化を推進していきます。その際に不可欠となるステークホルダーの理解・協力を得るため、学内の各組織が連携して、広報やFD等の戦略的なアプローチを並行して進めています。

本学の強みを活かした遠隔授業—効果検証

BYOD推進体制をもとにオンライン授業ツールの統一と体系的なFDで遠隔授業をサポート
→95%の教員がライブ型の遠隔授業を実施

遠隔授業の学修効果のデータをいち早く公表



遠隔か対面かという二者択一ではなく、**教育効果**の検証により、スライドや動画等の授業コンテンツを事前学修に活かす新たな授業スタイルへの転換
→教育効果の向上と教員の研究時間確保へ向けた大学教育のDX化を展望！

ステークホルダーの理解・協力を促す戦略的なアプローチ

世論 ▶ 広報による積極的な世論形成で後押し
遠隔授業の学修成果データをいち早くリリース→全国規模の報道で世論形成



全国規模の報道で調査データ紹介
11/3放映
フジテレビ「めざましテレビ」



「重要なのは教育効果」というメッセージを発信

地域 ▶ 県内他大学とも連携してオンライン教育テーマにシンポ

11/13 国大協共催の大学改革シンポジウムとして開催



オンライン授業の公開性を活かして大学・高専が連携して教育水準の向上を図ることを確認！

学生 ▶ 授業で学生たちがこれからの大学教育を考察・提案

授業調査の結果と自らの体験を踏まえて、1年生たちが今後の茨城大学での授業のあり方をプレゼン！



第3クォーター基礎科目「みんなのイバダイ学」

教職員 ▶ 「DX化も見据えた授業改善」良い実践をFDでシェア

ステークホルダーの理解・協力のもと、教育効果の検証に基づいた大学教育のDX化を推進